



ケアマネ みやざき



一般社団法人
宮崎県介護支援専門員協会
ケアマネみやざきNo.26
令和3年1月1日発行
発行責任者
担当理事 坂口和幸

「会長挨拶」

昨年は流行語大賞に選ばれた標語「3密（密閉・密集・密接）」に代表されるコロナ禍に明け暮れた一年となりました。私たちがかつて経験したことのないコロナ禍が深刻な影を暗く重く社会全体に落としています。

「ソーシャル・ディスタンス」により、対面での業務ができないために私たちが大切にしている「人と人とのつながり」が薄れ、その「人と人とのつながり」の文化は身近な近所や町内会などの地域社会でもますます醸成できにくくなっています。マスクは自分が感染しないためよりも、誰かにうつさないことに重きをおいて誰もが身に付けているのも、海外にない日本文化の一つかもしれません。改めて、「人と人とのつながり」は社会の資本であり、一日も早くコロナ禍が終息して、かつてのように心おきなく介護サービスを楽しむ利用者の皆さんの声を伺うために、直接訪問し向き合いたいものです。

さて、社会から要請されて担う私たちの業務は介護保険の枠を超えて拡大する一方で、最近では通院時の医療機関との情報連携強化や災害時の被災者支援など、地域を支える担い手として認められる存在となっています。そのような中で、厚生労働大臣の諮問に依りて、社会保障制度に関する横断的な基本事項や各種社会保障制度などに関する事項を調査審議するために厚生労働省に設置されている社会保障審議会介護給付費分科会では、①居宅介護支援事業所の公正中立性を確保しつつ、煩雑な介護支援専門員の業務を実態に沿う形で評価し、業務負担軽減を図り、担い手を確保するための適切な評価を行い、質の高いケアマネジメントを実践するために居宅介護支援事業所の厳しい経営状況を踏まえ健全な経営を運用できるための報酬水準の見直し、②ケアマネジメントの質を担保するため、多くの利用者を抱えないよう取られた「逡減制」をICTの活用や事務職員の配置を条件にした45件ほどとする見直し、③通院受診時に同行し、利用者同席でかかりつけ医と対面で連携することが双方に効率的であることから、平時から医療・介護連携を推進強化し、適切なケアマネジメントや質の向上に対する報酬上の評価、④緊急時等に業務外として生じた業務に係る費用については実費徴収が可能であることの明確化、⑤介護支援専門員が時間をかけて面談し、調整したにもかかわらず看取り期の利用者がサービス利用前に亡くなったり、施設に入所したりするなど、利用者の事情等によりサービス利用につながらなかった場合に対する適切な基本報酬の見直し、⑥報酬単価が低いために委託先の確保に苦慮する結果、地域包括支援センターの業務内容が煩雑化し負担がますます増加する一方であることから、外部委託を行いやすい環境整備の一環として居宅介護支援事業所との連携を評価する加算（委託連携加算【仮称】）や報酬単価の改善、などが協議されています。介護支援専門員にとって長年にわたっての悲願が少しでもかなえられることを願いつつ議論を見守りたいと思います。

この冬はもちろん、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行も含め、高齢者の皆さんに関わる最前線で奮闘しなければならない日々が今しばらく続くことが懸念されます。その備えを憂いなく万全にして、皆さまがお健やかに過ごせられますよう祈念申し上げます。



一般社団法人
宮崎県介護支援専門員協会
会長 牛谷義秀

令和2年度主任介護支援専門員フォローアップ研修会

令和2年12月18日（金）にホテルマリックス会議室からオンラインにて、主任介護支援専門員フォローアップ研修会が開催されました。当初は、別会場にて集合研修の予定となっておりましたが、コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインのみの研修会となりました。講義・演習では「地域アプローチの実践活動について」と題し、九州保健福祉大学社会福祉学部 山崎睦男准教授にご講義いただきました。

主任介護支援専門員の地域アプローチにおける役割として、①ひとり1人の生活を支える支援体制の構築、②人々が暮らす地域力を高める支援体制の構築、③個別支援と地域支援を統合させる、④個別支援と地域支援の展開を、地域福祉、まちづくりへ発展させるとし、地域アプローチへの重要な役割であるとお話しいただきました。



令和2年度 介護支援専門員とリハビリテーション専門職との合同フォーラム

令和2年12月12日（土）にシーガイアコンベンションセンター及びオンラインのハイブリッド形式で、宮崎県理学療法士会、宮崎県作業療法士会、宮崎県言語聴覚士会、宮崎県介護支援専門員協会の4団体共催で、合同フォーラムが開催されました。

講義では「宮崎市郡在宅医療介護情報連携システム（MICT）について」と題し、外山内科神経内科医院 外山博一先生にご講演いただきました。外山先生は、「MICTの目的は、地域包括ケアに関わる多職種及び患者・家族の間で、ICTを用いたコミュニケーションを行うことで、地域の医療・介護の質を向上させ、地域包括ケアシステムの構築と発展に貢献することである。今後はMICTで多職種が繋がっていくことが必要である」とお話しいただきました。シンポジウムでは、「コロナ禍における新しい視点による高齢者支援の事例発表」が行われました。コロナ禍においては各専門職種共に今までできていたことが出来ないもどかしさ、活動量の低下による身体機能の低下など、多職種連携にて乗り越えられる壁について活発な議論が行われました。





介護支援専門員ケアマネジメント向上事業 ケアマネナビゲーター委嘱式



令和2年10月27日（火）JA・AZMにて、ケアマネナビゲーター委嘱式が行われました。ケアマネナビゲーター相談・助言事業については、平成26年度から開始された事業です。今年度からのケアマネナビゲーターの事業内容として、①新規指定事業所または、事業所からの希望や実地指導等で個別の助言・相談の場が必要と判断された事業所への個別支援、②地域包括支援センター圏域毎に集いの場を設定し、地域における相談・助言のネットワーク構築、この2つを実施していただくこととなっています。新ケアマネナビゲーターの皆さまよろしくお願いたします。



新型コロナウイルス感染症に係る高齢者施設等への 応援職員派遣に伴う感染症対策研修会



令和2年12月13日（日）シーガイアコンベンションセンターにて開催されました。高齢者施設等において利用者や職員に感染者が発生した場合、感染者である職員は、入院若しくは自宅療養又は宿泊療養、濃厚接触者である職員は自宅待機となり、事業所内での勤務体制の変更や同一法人内での職員の確保・調整等を行なってもなお職員が不足する場合がございます。このような場合に備え、応援職員派遣や代替サービスの提供が可能となるよう、個人及び事業所の皆様に宮崎県が登録をお願いしております。

今回、ご登録いただいた方に対して、派遣される場合においても正しい知識と技術を備えていただくための研修を、宮崎県介護支援専門員協会が宮崎県より受託し開催しました。

感染症クラスター発生時の全体像やDMATとの連携について、支援者の惨事ストレスについての講義や、防護服着脱等の演習が行われました。

研修会冒頭では、宮崎県福祉保健部渡辺部長にも駆けつけていただき、研修受講生に対し感謝と今後の期待のご挨拶をいただきました。





オンライン研修 (ZOOM使用マニュアル) のご案内



新型コロナウイルス感染症対策として、様々な研修会でオンラインを使用して開催されることが多くなりました。宮崎県介護支援専門員協会においても、県協会主催の研修会のみならず法定研修においてもオンライン研修のみということがあります。そこで、まだオンライン研修に不安をお持ちの方や活用したことがない会員様向けに、宮崎県介護支援専門員協会のホームページにZOOM使用マニュアルを掲載いたしました。この機会にぜひマニュアルをご活用いただき、オンラインを使用しての研修会や会議などをご活用いただければと思います。

また定期的にZOOM接続テストなどができる体制も作ってまいりますので、その際もぜひお試しくださいとさせていただきますようお願いいたします。

第3回理事会開催

令和2年9月26日、事務局及びオンラインにてハイブリッド理事会が行われました。

今回は、初めてハイブリッド形式での理事会となりましたが、法定研修の実施について各部会・ブロックネットワークの活動状況などについて活発な議論がなされました。



事務局ニュース

令和2年11月から、宮崎県介護支援専門員協会事務局に新しく本田香織さんが入局されました。「一日も早く、仕事を覚えられるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。」本田さんよりコメントでした。



左上 小島さん
右上 本田さん
左下 長友さん
右下 井上さん

宮崎県介護支援専門員協会会員数の動向

令和2年12月現在の地域ブロックネットワーク別会員数

ブロックネットワーク別	正会員	準会員
宮崎・東諸県	620	14
小林・えびの・西諸	115	0
西都・児湯	114	0
日南・串間	138	1
都城・北諸県	226	3
日向・東臼杵	136	0
延岡・西臼杵	171	1
鹿児島県	3	0
合計	1523	19

令和2年12月2日に今年度の介護支援専門員試験合格発表がありました。

宮崎県では725名が受験され102名の合格者が出ました。

一人でも多くの合格者が県協会へ入会いただくよう、会員の皆様のご協力よろしくお願いいたします。

編集後記

去年のケアマネみやざき作成時には、来年のこの欄にはオリンピックの事が書けるかなあって考えてましたが、まさかこんな大変な一年になるとは・・・

宮崎県内でも、宮崎市に入るのは少しためらいますという、声を聴くことがあると、このウイルスの恐ろしさってなんか違うところにあるなあって感じる今日この頃です。 K・S